

学校法人 三幸学園
横浜ビューティーアート専門学校

平成27年度 項目別自己評価表

1. 学校の教育目標

三幸学園は、昭和60年の開校以来約30年にわたり、『技能と心の調和』を教育理念に掲げ、教育を展開してきた。ここでは、社会への有益な職業人を数多く輩出することを目標に、“有益な職業人とは、専門的知識・専門的技術を十分持ちながら、常に変遷する社会に対し柔軟に対応するため日々研究・研鑽を続け、職業人としての使命感をしっかりと確立した人物”と定義し、心豊かな人間性を育む教育に注力している。

この基本理念は、教職員に対しては、教職員手帳、「三幸学園の原点 あきらめない教育」に明記し配布しているほか、全教職員が一同に集う「ビジョンミーティング」、「サマーセミナー」においては、学園長及び理事長からの訓示の中で繰り返し唱え、各姉妹校で行われる年3回の全体会議にて共有化を図っているものである。また、学生に対しては、「入学式」や「スタートアッププログラム」において、校長や教職員からの言葉として示すとともに、本校独自のカリキュラム「成功の法則」の授業で使用する「夢のスケッチブック」に記載し周知を図っている。このほか、受験生、高等学校、保護者等に対しては、オープンキャンパス、高校訪問、保護者説明会などを通じて伝え、また、パンフレットに明記することにより学内外の周知に努めている。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

・人間性を高める教育の実践

「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる(皆をハッピーにする)人材」を目指す人材育成方針とし、単に知識や技術を研究するに留まらず、人間性を高める教育を併せて展開することにより、真に社会に役立つ人材を輩出できると考えている。

・高い現場力の醸成

現場力の醸成を目的に、各学科で重点教育項目を作成し、全教職員で共有し具体的な指導法を統一させる。また企業様からの講話、インターンシップ実習、サロンワーク等を通して培われるおもてなしの実践や、気配りの体得を目指す。長期的に活躍できる人材を増やすために、忍耐力と社会人基礎力の習得を図る。

・ブライダルプロデュース科カリキュラムの大幅変更

教育編成委員会のご意見を受けて、更なる専門生の向上のために 2 学科 4 コース制を導入。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	④ 3 2 1
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4 ③ 2 1

① 課題

最新の業界のニーズを把握し、体得するべくカリキュラム、指導要綱にタイムリーに組み込む。

また指標を与えるだけでなく、それが実践できるようになったかどうかの、セルフチェックや評価制度などを検討する。

② 今後の改善方策

- ・企業や業界団体との関連性を高めていく活動を通じ、業界動向を正確に把握し、情報の精度を高める。
- ・収集した情報を多面的に評価し、教育課程の編成に活用していく仕組みを構築する。

③ 特記事項

- ・学園ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」と学園ビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」を教職員、そして生徒たちにも公開し、ポスター掲示等で学園の方向性を提示している。
- ・入学時及び1年次後期に向け、将来ビジョンを目標化させ、職業感を醸成している。

④ 委員コメント

- ・教育理念は「技能と心の調和」が明確に定められていてわかりやすい。
- ・高校からの採用の問い合わせが増えている、差別化を計る為、専門学校としても業界のニーズに合った人材育成が求められる。

(2). 学校運営

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④ 3 2 1
人事、給与に関する制度は整備されているか	④ 3 2 1
教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	④ 3 2 1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④ 3 2 1
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4 ③ 2 1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 ③ 2 1

① 課題

- ・授業資料・コンテンツ・動画等の教務資料の共有化。
- ・より一層の情報システム化等による業務効率化、IT 機器の導入。

② 今後の改善方策

- ・業務フローを再点検し、自動化できる業務に関しては合理化し、業務の効率化を図る。

③ 特記事項

- ・運営方針の浸透と情報共有のために、年3回以上の全教職員による会議や、月1回程度の教科ごとの会議を開催し、リアルタイムな生徒情報の共有と指導の統一、業務改善に取り組んでいる。

④ 委員コメント

- ・適切に学校運営ができていると感じる。
- ・運営方針が明確に示されておりわかりやすいと感じる。
- ・コース選択制や専攻分けがあることにより明確な進路になる。

3). 教育活動

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 ③ 2 1
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4 ③ 2 1
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 ③ 2 1
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4 ③ 2 1
授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 ③ 2 1
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	④ 3 2 1
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 ③ 2 1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 ③ 2 1

① 課題

- ・更なる教育活動の質の向上(社会ニーズの取り込み、体系化、教育手法の開発)。
- ・関連分野企業との連携授業の展開及び評価制度の導入。
- ・教職員用研修の充実。

② 今後の改善方策

- ・インターンシップなどの産学連携行事と授業の相互性の向上。
- ・産学連携授業コンテンツの作成、企業による導入、評価制度などカリキュラムを含めた仕組みづくり。
- ・更なる専門性の向上のため、ブライダルプロデュース科をウェディングプランナー科とビューティーコーディネーター科に分科し、合計4コースを導入する。

③ 特記事項

- ・アクティブラーニング等の教育手法の導入、成功の法則等のモチベーション管理と成長実感醸成。
- ・ウェディング企業での現場婚礼授業の実施。

④ 委員コメント

- ・面倒見の良い学校で卒業後も関わり続けている為、企業としても安心がある。
- ・コミュニケーションを取ることが苦手な生徒も多いと感じる。
コミュニケーションを取り、話す力が備われば自分で考えて行動できるようになるのではないかと。
- ・社会人基礎力、コミュニケーション能力を高める授業はあるが、実践的能力は低いと感じる。

(4). 学修成果

【評価項目】	適切:4	ほぼ適切:3	やや不適切:2	不適切:1
就職率の向上が図られているか	4	3	2	1
資格取得率の向上が図られているか	4	3	2	1
退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	1

① 課題

- ・精神的疾患理由の退学者の低減方法の模索。
- ・経済的理由の退学者防止のための、経済支援制度の運用。
- ・卒業生の就業状況を確認し、企業での評価を把握する。

② 今後の改善方策

- ・精神科医等による教員研修の実施や個人面談、スクールカウンセラーの活用改善。
- ・同窓会システムの改善と情報収集。

③ 特記事項

- ・スクールカウンセラー、メンタルヘルスカウンセリングシステム導入。
- ・同窓会システム「Link」発足。

⑤ 委員コメント

- ・退学を防止するために、入学が決まった生徒に対して、目標をしっかりと設定させる必要があるが、横浜ビューティーアート専門学校では、入学前からスクーリングや入学前オリエンテーション、入学後研修などを実施し、美容業界に対するイメージのギャップを埋める工夫をしている。高校としても高校在学中にモチベーションを上げることができるので、大変ありがたいことである。
- ・退学を防止するために、学業を継続することによって得られるメリットをあきらめずに伝えていく必要がある。
- ・自己表現が出来ない生徒が多く、SNSの普及によって「聞く」「見る」よりも話す力が弱くなっている。
話す力が備われば、自分の感情や悩みを人に伝えることができ、退学の原因になる悩みを抱えている生徒に対して、対応がしっかりできるのではないかと。また自分で考えて行動できる力が弱くなっているように感じる。
- ・就職率の向上には、面談を通して就職を希望する企業の特徴をしっかりと伝える必要があり、その為に卒業生を活かし情報を得る必要がある。

(5). 学生支援

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4 ③ 2 1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
学生の生活環境への支援は行われているか	4 ③ 2 1
保護者と適切に連携しているか	4 ③ 2 1
卒業生への支援体制はあるか	4 ③ 2 1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 ③ 2 1
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4 ③ 2 1

① 課題

- ・保護者会の実施、現況報告以外の取組の充足。
- ・経済的理由での退学者防止。

② 今後の改善方策

- ・各種課外活動事例の提示と、学校行事等と連携して導入。

③ 特記事項

- ・29年度より経済支援制度導入予定(生活保護受給世帯及び所得税免除世帯)。
- ・美容科部活の創設。
- ・保護者との協力活動の強化(入学前保護者説明会・授業参観・学校通信・サロンワークへの参加)。

④ 委員コメント

- ・サービス業界での土日勤務や、美容業界での自主技術練習などは当たり前に行われることが多いが、今の若者には理解されないことが多い。
- ・労基署からの指導もあり、時間外での強制練習はサービス残業としてとらえられ、許されない風潮が出てきている。業界の特徴(福利厚生)を伝え、理解した上で生徒を育成、支援する必要があると感じる。

(6). 教育環境

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

① 課題

校舎も築 10 年を超え、設備に経年劣化が出来てきている部分がある。

② 今後の改善方策

予算をみながら、適宜、修繕、入れ替えを行っていく。

③ 特記事項

1 年に一度、避難訓練を実施している。

シャンプー実習室の改修済み。

ブライダル実習室(チャペル・バンケット)の設置。

④ 委員コメント

・施設や設備は十分に整っているように見受けられ、評価できる。

(7). 学生の受入れ募集

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	3	2	1
学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

① 課題

・AO入学導入によって高校生の進路決定が早期化し、高校在学中の勉学意欲が低下する懸念がある。

② 今後の改善方策

・入学前教育を更に向上させ、自己研鑽意欲、知識欲など、高校での授業姿勢にも繋がる動機付けを行う。

③ 特記事項

・学納金は教育研究費、人件費、施設管理費等を算出基盤としている。

・学納金の決定に際しては、他校の学費水準も把握した上で決定している。

④ 委員コメント

・募集活動は適切に行われていると感じる。

(8). 財務

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
財務について会計監査が適正に行われているか	4	3	2	1
財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

① 課題

・財務情報の公開については、WEBで閲覧可能な状態となっているが、時系列的にデータが把握できる状態にはなっていない。

② 今後の改善方策

・設置する学校が多いため、財務状況を時系列的かつグラフを用いる等して、第三者からも理解しやすい工夫を行っていく必要がある。

③ 特記事項

中長期的な財務基盤の安定について

・生徒募集は堅調に推移し、予算も計画通り推移し財務基盤は安定している。

予算および収支計画の有効性、妥当性について

・予算・収支計画については、正確かつ適正な予算編成を行うことを目的として、毎年度、学校責任者が策定し、総務部と理事で構成する予算編成会議において原案が策定されている。

・予算執行状況が当初予算と乖離する場合は、予算編成会議において補正予算の原案が策定される。

・策定された原案については、理事長説明を経て、理事会・評議員会において目的と有効性が審議され、有効かつ妥当なものとなっており、決算書、予算書、事業報告書に反映される。

会計監査について

・私立学校振興助成法第14条第3項の規定に基づき、公認会計士による会計監査を受検している。また、私立学校法第37条の学校法人監事による業務監査及び関係監査を受検している。

・法人内部では総務部による内部監査を実施し、監事、公認会計と情報共有を行い、財務の正確性と業務執行状況について担保している。

④ 委員コメント

特になし

(9). 法令等の遵守

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④ 3 2 1
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4 ③ 2 1
自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1

① 課題

- ・更なる法令遵守の推進。
- ・問題点の改善。

② 今後の改善方策

- ・会議や掲示物を通じて、全教職員の法令遵守に対する啓蒙を継続的に図る。

③ 特記事項

- ・とくになし

④ 委員コメント

- ・教育現場も企業も同様、法令遵守環境と教育が必要である。

(10). 社会貢献・地域貢献

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④ 3 2 1
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	④ 3 2 1
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4 ③ 2 1

① 課題

- ・地域に対する公開講座は高校生向けのものが多い。

② 今後の改善方策

- ・地域貢献に繋がる公開講座を積極的に実施していく。

③ 特記事項

- ・老人福祉施設等スポーツイベント等での美容奉仕活動を行っている。
- ・授業内で生徒の施術モデルとして一般の方に来ていただき、施術の感想、評価、コメントなどを頂いている。

④ 委員コメント

- ・ボランティア活動や模擬サロンなど積極的な取り組みは評価できる。

全体を通じた委員コメント

- ・自分で考え行動できる生徒を育てる為に、押さえつける教育から一人一人を主役にする教育に変えることが必要である。
- ・美容業界で活躍できる生徒を育成するために、他校さんとの意見交換などを行うことも必要である。
- ・三幸学園のミッションやビジョンに共感が持てる。
- ・募集パンフレットと実際の教育がずれないように注意することが大切である。
- ・三幸学園の生徒は心の教育がしっかりとされており、イベントなどでも一丸となって盛り上がる事が出来る卒業生が多い。